

災害救助飛行訓練における航空機騒音の軽減等について（要請）

立川飛行場において、来る令和4年10月1日（土）に災害救助飛行訓練が実施されると聞いております。

立川飛行場は人口が密集した市街地に所在し、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛、自宅勤務等により在宅時間が増加する中で、航空機騒音に対する苦情や安全面の要望が多く寄せられております。

また、令和元年には、陸上自衛隊立川駐屯地所属UH-1ヘリコプターの着陸事故、令和2年には同ヘリコプターの部品落下事故や飛行中の機体から搭乗員の帽子が飛散する事故も相次いで発生しております。一步間違えれば、人命に関わる重大な事故につながりかねず、飛行場周辺住民は常に不安を抱えながら生活しています。

つきましては、立川飛行場周辺自治体連絡会は、災害救助飛行訓練の開催に当たり、次のことを要請します。

記

○災害救助訓練に関わる航空機の当日及び予行訓練時の飛行に当たっては、災害活動を想定した必要最小限の飛行にとどめ、航空機騒音の軽減に努めるとともに細心の注意を払うこと。

令和4年9月26日

東京消防庁装備部航空隊 隊長 西原 健治 殿

立川飛行場周辺自治体連絡会構成市長

立川市長	清水庄平
昭島市長	臼井伸介
小平市長	小林洋子
日野市長	大坪冬彦
国分寺市長	井澤邦夫
国立市長	永見理夫
東大和市長	尾崎保夫
武蔵村山市長	山崎泰大

幹事 立川市長 清水庄平

